

教会のかしらとイスラエルの王

2008年4月6日 アシェル・イントレーター

イエシュア(イエス)は諸国の教会のかしらでありイスラエル国家の王です。主は統合失調症ではありません。これらの2つの役割は最終的には1つに統合されます。イエシュアが両方の役割を担うことを理解するのは難しいことです。(イスラエルのエフード・オルメルト首相が教皇、あるいはローマ教皇ベネディクト16世がイスラエルの首相として想像するのが難しいように。)

しかし、イエシュアは両方であり、その二重の地位から神の御国の奥義は発展するのです。主には二面性があり、神の御子であり、ダビデの子なのです。

ローマ 1:2-4

この福音は、(中略)御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。

主の神性と人、両方の完全なコンビネーションに、私たちは救いと神のご計画を見出すことができます。一方において主は神であり、もう一方において主はユダヤ人です。少なくともこの文の半分は、多くの人にとって不快なものでしょう。しかし、このイエシュアの二面性こそ福音と神の御国両方において重要なものなのです。

「キリスト」という称号は主の神性を表し、「メシア」は、主のダビデの王統を表します。四つの福音書においては、イエシュアはイスラエルの王として見られており、新約聖書の手紙の中では、主は教会のかしらとして見られています。この、イエシュアの二面性において、イスラエルと教会との間の連携と一致の奥義を見出すことができます。

エペソ 2:14-15、3:3-6

キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし

(中略)二つのものをご自身において新しいひとりの人を造り上げて

(中略)この奥義は啓示によって私に知らされたのです。(前略)前の時代には、今と同じようには人々には知らされていませんでした。

その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。

イスラエルと教会の和解の奥義が、主^にあって、となっていることに注意して下さい。単に、私たち(イスラエルと教会)との間の和解ではありません。イスラエルと教会の和解について最初に見出せるのは、私たちもこの二つの特性を認めることにあるのです。主ご自身の個性の一致が、私たちが互いに一致することを可能にするのです。

私たちは、イエシュアを教会のかしらとしての啓示を受け入れなければなりません。

エペソ 1:19-23

(中略)神はその全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次の来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。また、神はいつさいのものをキリストの足の下に従わせ、いつさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。

第一に、イエシュアはご健在で、生きて働いておられ、御父の右の座にあってご自身の働きをされている啓示が必要です。

第二に、主が世界中の政府や権威を支配しておられることを見る必要があります。

第三に、地上における主の支配は、仲介役となる一群の人々を通して拡大されるのです。それは、世界中にいる真実の、生まれ変わった、霊に満ちた信者たちの目に見えないネットワークです。

イエシュアはその一群のかしらであり、教会のかしらです。教会は、地上の主の霊的な権威の代理を務めることになっています。私たちはイエシュアが世界を支配するにあたり、その仲介集団となる必要があります。

イエシュアが教会のかしらとして見ることができなければ、教会が世界を統治する団体として見ることはできないでしょう。私たちは天から地に対するイエシュアの権威の仲介者なのです。

その一方で、イエシュアはイスラエルの王です。

ヨハネ 19:19-22

ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス。」と書いてあった。それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれは、ヘブル語、ラテン語、ギリシャ語で書いてあった。そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください。」と言った。ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」

神はこの世界の政治に対する権威をダビデ王に、ダビデの子がメシアとなると約束した。(Ⅱサムエル 7:12-16、詩篇 89:19-29、マタイ 1:1-2、ルカ 1:31-33)

イエシュアをイスラエルの王として見るができなければ、私たちはイスラエルに対する神のご計画と権威を理解することはできないでしょう。イスラエルの政府は最終的には世界を支配し、千年王国において地上のイエシュアによる治世の道具となるのです。

それは矛盾するように思えます。誰が支配するのでしょうか。イスラエル、それとも教会でしょうか。答えは「両方」です。ローマ 11 章によると、様々な「キリスト教」という枝はみなイスラエルに接ぎ木され、すなわちイスラエルの部分となるのです。その一方で、「イスラエルはみな救われる」ことによって、イスラエルは教会の一部となるのです。

ユダヤ人はイスラエルの子孫であり、教会はイスラエルの拡張した「家」なのです。(エゼキエル 37:16) 教会はイスラエル「連邦」の一部となり(エペソ 2:12)、同時に主の御国はイスラエルと教会に分割されるのではなく、主の御名によって御国は一つとなるのです。(エゼキエル 37:22)

ゼカリヤ 14:9

主は地のすべての王となられる。その日には、主はただひとり、御名もただ一つとなる。

ユダヤ教のシナゴグでは、1日3回、礼拝ごとに「アレイヌ」祈祷で終わることについて、クリスチャンは知らないのです。ユダヤ人は、この箇所がイスラエルの国家と諸国の教会がイエシュアの御国において一つになることを引用しているのを知らないのです。